

高齢化対策が小牧市の最重要課題です!!

現職市長は、高齢化の中で、高齢者が安心して幸せに暮らせる小牧づくりへ全力を傾注しています。

- 例えば
- 「在宅医療・介護連携サポートセンター」の開設
 - 「医療・介護・福祉の連携体制の強化」
 - 認知症高齢者などの成年後見人制度などを活用した支援のための「権利擁護支援センター」の開設
 - ひとり暮らし高齢者などの見守りの充実
 - 駅などのバリアフリー化や公共交通の充実

など、行政として様々な福祉サービスの向上を推進してきました。



他にも実績多数あり!

ただ、行政の力だけでは、今後も安心して暮らせる高齢社会を実現できないのも事実です。

そこで! 小牧市は、独自の取り組みとして、「健康づくり支援」と「支え合いの地域づくり」に力を注ぎ、「元気」と「支え合い」の地域内循環を目指しています。

同時に

若年人口の定住促進も最重要課題です!! (高齢化対策と表裏一体)

大きな課題 人口減少時代、自治体間の若い人口の奪い合いが激化。小牧市も、残念ながら20代~40代が転出超過の傾向が続いており、過去5年間で千人以上減っています!

このまま若い人たちが減り続ければ、まちはどんどん衰退してしまいます。若い世代が住みたい魅力あるまちづくりは市民の誰もが決して他人事ではありません。

地域活性化がポイント!!

子どもから高齢者まで多くの

市民が集う、ライブラリ・パーク 駅前の新図書館が

これからの魅力ある小牧づくりの起点に!

- おしゃれなカフェ
- コミュニティスペース
- 飲食コーナー
- サイレントルーム(学習室)
- 快適なネット環境
- イベントスペース

今までの図書館とは違った、時代が求める新しい図書館スタイルに!

老朽化している現図書館は貸出専用時代の古いタイプの図書館です。他市町では、おしゃれなカフェがあったり、ネット環境も整った、居心地のよい滞在型の図書館が主流に! イベントや多世代の市民交流の場にも!



現職市長は「子ども夢・チャレンジNo.1都市」を掲げ、教育環境の充実や、様々な子育て支援の充実に取り組み、子育て世代に選ばれるまちづくりを全力で進めています。

若い世代・子育て世代の定住促進へ「住みたい、魅力あるまちづくり」が重要です!

この計画をストップさせないで
・駅前を活性化してほしい
・友達とおしゃべりできる
おしゃべりなカフェもあるといいな
(学生や若い主婦の声)

・今の図書館は古い
・夜は暗くて行きにくい場所
・学習スペースが少ない
・早く新しい図書館をつくってほしい
(中学生・高校生の声)

小牧の課題を連動して解決します!

課題解決!

子どもがのびのびと成長できる環境を!
中央子育て支援センターは「子育て世代包括支援センター」として先行してラビオに。「児童センター」は子ども未来館の2期事業として整備予定。

プラネタリウムがある中部公民館1・2階に、市の子育て支援の中核拠点施設の「児童センター(中央児童館)」と「中央子育て支援センター」がこれまでありましたが、非常に手狭で、その拡充整備は長年の懸案でした...



小牧駅前の市有地は30年以上、暫定整備の駐車場のままで、まちの活性化に向けて大きな課題です。

幸せな高齢社会を築くために

「活力ある高齢社会(小牧モデル)」の実現を!

高齢化は、ネガティブな意味で語られることが多いのですが、本来「長寿」であることは素晴らしいことであり、「幸せな高齢社会」をつくるのが我が国の大きなテーマです。

その「カギ」となるのは、「活力ある高齢社会」と現職市長は考えます。

そこで、小牧市は、独自の取り組みとして、

健康づくり支援・支え合いの地域づくりに力を注ぎ、「元気」と「支え合い」の地域内循環を進めています。

すなわち、健康な高齢者を増やし、元気な高齢者が趣味などを楽しみながらいきいきと暮らす中で、月に1日でも2日でも良いので、地域の支え合い活動に参加していただく仕組みづくりです。誰もがいずれば歳をとるわけであり、「お互いさま」の心で支え合う、あたたかい小牧市を、市民の皆様とともに実現してまいりたいと思います。



支え合い
市民同士が協力し合い、安全安心なまちをつくる
支え合いいきいきポイント事業
地域での支え合い助け合い活動に協力してポイントが付与! P
施設での活動と地域での活動それぞれ5,000pt。年間合計10,000ptたまる!
介護施設ポイント サロンポイント
介護施設での補助的なお手伝いをされた方に サロンや認知症カフェの運営に協力された方に
地域ポイント 日常生活のちょっとした困りごとを支援した方に
お互いさまサポーターは900人を超えました!

ポイントが貯まると年間最高13,000円分の市内限定商品券と交換できます! ※1ポイント1円換算
プレミアム商品券を使用することでまちの元気にもつながります!



巡回バスの充実も高齢者福祉施策です!

現職市長は、「高齢者の足の確保」を目的に、こまき巡回バスを大幅に拡充! 全国一の充実度です!

巡回バスを8コース(約2時間に1本)から19コースへ大幅拡充。全ての市民の家から半径500mにバス停があり、約1時間1本のバス実現は全国初と言われます。



市民の元気

市民の元気がつながり、まちも元気になる

健康いきいきポイント事業

自分に合った健康づくりにチャレンジで

ポイントを付与! P

健康いきいきポイント1,000ptと alkoでの2,000ptで 合計3,000ptたまる!

- 健診・検診チャレンジ
- 自主目標チャレンジ
- ウォーキングチャレンジ
- 参加チャレンジ

まちの元気

高齢化が進む中で、地域にある小さなお店を守っていくことも暮らしやすいまちにとって大切です。市民の元気と支え合いが、まちの元気につながっていく循環の仕組みを目指します。



現職市長はとても誠実な人柄! 正しい情報を確認してください

「現職市長が住民投票の結果を無視して図書館を強引に進めている」といった他候補やそれを支援する政党・団体などの宣伝は、全く事実ではありません。

新図書館も子ども未来館も、市民とともにしっかりと議論を行い、市議会の議決を経て、適正なプロセスで進められています。

新図書館の住民投票後の経緯

- 現職市長は3年前、当時の計画の是非を問う住民投票の結果を受け止め、当時の「ツタヤ図書館」の計画はきちんと白紙にしました。
- そして、市民の代表等による審議会に委ね、ラビオの空床や建設費用の問題も含め17回にわたる丁寧な会議を経て、4分の3を超える委員の多数意見として、「ラビオ内に図書館を入れる方が確かに安いが、これまで長年議論されてきたこれからの時代に求められる図書館の実現は、ラビオに空床があるからそこに入れれば良いということでは実現できず、今後50年、60年と永く市民に利用される図書館として、「市直営」のしっかりとした図書館を「A街区に新設」するのが望ましい」との趣旨の審議会からの答申を受けて、「市直営」の図書館の駅前建設が市議会で可決され、市民ワークショップ等を開催して設計が進んでいます。

(仮称)子ども未来館の経緯

- 中部公民館(プラネタリウムのあるビル)1・2階の「子育て支援センター(市の子育て支援中核拠点)」と「児童センター(中央児童館)」の狭隘化等が以前からの課題であったため、「子ども・子育て会議」など市民や有識者等による議論を経て、拡充整備の必要性が市の計画に位置付けられ、ラビオの市有床に転移・拡充整備を図ることを決定したものです。
- 子ども未来館は、子ども達の様々な体験と学びの場として、また、産後ケア事業など新たな支援も行う子育て支援の中核施設として重要な役割を担う施設です。

ラビオの空き市有床は7000平米と広く、どのような施設を整備しても15億~20億円程度かかる試算であり、同時期に整備を進めている2つの「老人福祉センター」建設費より安く、世代間のバランスは保たれています。